

第 63 期第 1 回委員長・書記長会議議事録

- 1 開催日時 令和 4 年 10 月 29 日（土）12 時 30 分から 10 月 30 日（日）12 時 30 分
- 2 開催場所 会議するなら及び各地区本部（ハイブリッド開催）
- 3 出席者
 - [中央執行委員長]
倉本和邦（WEB）
 - [中央書記局]
齋藤雅記（書記長）、村岡和弥（書記次長）
 - [地本委員長]
北出淳一、浅野浩一、前田義徳、原川佳也、徳地隆人（WEB）（30 日のみ）、仲野裕幸、松本篤志、福本一也、新里薫
 - [地本書記長]
山本真史、塩谷誠、小山内豊、平松邦紀、取越光生（WEB）（29 日のみ）、本田健太、久保山大助、小幡仁
 - [担当中執]
佐藤裕一、永山幸司
 - [オブザーバー]
佐藤直樹
- 4 議 題
 - （1）各地区本部情勢報告
 - （2）検討事項「草の根活動状況について」
 - （3）検討事項「組織拡大に向けた具体的取り組み事項について」
（新職及び本省他機関帰関者加入状況等含む）
 - （4）その他
- 5 議事内容
 - 中央執行委員長挨拶
 - ・来週、中央総決起集会や第 2 回中央執行委員会がありますので、中央情勢については省略させていただきます。
 - ・本日は、リフレッシュ期間である土日にこれだけ集まっていただきありがとうございます。前期までは書記長会議を全 2 回開催していましたが、コロナ禍で加入懇懇が中々できない中、どこの地区本部でも脱退者が非常に多く出ており、全体の加入者が 50%程度まで落ちております。先月の定期大会や第 1 回中央執行委員会でもお話をさせていた

だきましたが、今期は組織率の強化を第一に活動を進めていくことを考えております。今回は、各地区本部のトップである委員長にも参加していただき、より多くの声を聞かせていただいて、組織を前に進めていくことができればと思い、本日集まっていたところでございます。新規加入態勢のやり方につきましては、今まで各地区本部にお任せしているところがございますが、例えば小学校において逆上りを子供にやらせるのと同じであると思っております、先生が手本を見せることによってすぐにできる生徒とできない生徒がいるのと同じで、できない生徒であってもやり方のコツを先生や友達が教えてあげることによってできるようになったりする子も出てくるかと思っております。できない人に対して「なんでできないんだ」「やり方が悪いのではないか」「根性でできるようにしろ」とかは間違いだと思っております。できている人ができない人に手本を見せてあげるのも大事であり、人を育てていくことで組織が良くなると思っております。明日までの限られた時間ではありますが、知恵を出し合って組織を活性化していくうえでも、明日の午前中を使って各地区本部が実際に加入態勢をどのように行っているか披露していただいて、他の地区本部のテクニックを真似するなりして、各地区本部に持って帰っていただければと思います。

- ・1泊2日での会議は、コロナ前以来かと思っております。かなり久しぶりになるかと思っております。限られた時間ではありますが、感染に気を付けながら横のつながりを深めていただければと思います。

(1) 各地区本部情勢報告

ア 函館

- ・10月1日 定期大会
- ・10月8日 青年総会
- ・10月3日 幹部表敬
- ・12月上旬 税関長交渉
- ・研修に来た研修生と昼食会を実施している。直近では、監視の研修に来た研修生に実施。
- ・復便の状況は以下のとおり。

新千歳空港：入国撤廃後、週1-2便の定期便が入ってきている。チャーター便は入ってきていない。入国旅客は、7月中旬から徐々に入ってきているが、1週間で数百人程度。7月が週400から500人程度。8月が500人程度。9月が少し減って150人程度。今後の定期便の再開予定は、韓国、台湾、香港、シンガポールあたりで徐々に再開するという話が入ってきている。入国旅客が少ないので併任を戻すという話はない。新千歳空港が復活すれば併任を解除して戻すこともあるという話だったが、7月の人事異動では戻らなかった。

イ 東京

- ・10月7日 定期大会
- ・9月22日 地区委員会
- ・12月2週目 税関長交渉
- ・復便の状況は以下のとおり。ロシア制裁や青免で人を取られており、現状でも人数が足りないということで成田と羽田分会から併任解除の申し入れをしている。ただ、併任職員も人員に入れて運用しているため併任先もいきなり解除されても困るという話がある。他地区本部で話があった、検疫の問題は東京では聞いていない。先ほどインターネットで調べたが検疫は全国区での異動があるよう。

成田空港：回復傾向にあり、増便の連絡がかなりきている。

羽田空港：回復傾向にあり、増便の連絡がかなりきている。10月は1日8,000-9,000人程度の入国。毎週1,000人程度増えている。今後も便が増える予定があるので1万人を超えるのは時間の問題。

新潟空港：情報は入ってきていない。しかし新潟支署では、5月6月以降、ロシア船の入港が増えており、ロシア向けの輸出貨物（中古車等）が急増している。入港が増えているのは、大阪の伏木に入りきらなくて新潟に来ているよう。ロシア向けに託送品申告書を出すときに、ロシア規制が品名やHSコードでされており、貨物それぞれにHSコードを振って規制を判断するので余計に事務が煩雑になっているという話がある。また、取締対象船舶の入港も増えている。このため、新潟の方でも人員についての申し入れを行っている。

山形空港：税関長が山形県の吉村知事と会談した際に、空港に人が来たら対応しますとリップサービスか分からないが発言があった。コロナ前は台湾からのスキー旅客が多かった。山形は出張所に3名しかおらず、従来は応援で対応していた。移動時間が大変で、山形に人を付けられないかという話があったが、冬しか需要がないので難しそうである。

[上記報告を受けて中執での質問]

- ・10月1日に国税が3人ほど成田に青免の関係で併任されていると思うが、どういう勤務をしているかなどの詳細は把握しているか？

→具体的な勤務は把握していないが、3ビルの総括で勤務している。3ビルの総括が他のターミナルの青免の対応をしていると聞いている。今月に入って青面の不正らしきものがあつた。納税通知をしたが旅客は拒んでいるとのこと。その後は聞いていない。国税も消費税に力を入れているようで、これから併任は増えていくのでは。併任でNACCS、CISを使えるとなると情報セキュリティの観点からも心配がある。これまで国税に提供していなかったインボイス等が見られる可能性がある。

ウ 横浜

- ・ 9 月 22 日 定期大会
- ・ 11 月 24 日 税関長交渉予定
- ・ 10 月 26 日 国公連合東北総会に出席。人事院東北交渉に出席。交渉での事務局長の発言で、寒冷地手当については今年 4 月にメッシュデータが出たのでそれに基づいて検討していくとのオフレコ発言があった。地域手当については 2025 年に見直しとの発言があった。
- ・ 復便の状況は以下のとおり。
 - 仙台空港：タイ国際航空のチャーターが年末年始に 3 便程度入る予定。定期便は早くて年明け以降。
 - 福島空港：検疫が仙台空港の仙台検疫所から出張で行っているの、まずは仙台空港が再開してから福島空港という流れ。
 - 茨城空港：検疫の設備がなく困難という話。定期便についてはタイ国際航空が早くて年明けになるとのこと。

エ 名古屋

- ・ 10 月 3 日 要望書（中央定期大会、青年総会分）提出
連合愛知の学習会に参加
- ・ 10 月 15 日 定期大会
- ・ 10 月 18 日 要望書（名古屋地本定期大会分）提出
- ・ 10 月 19 日 名古屋税関の食堂委員会に出席。本関の売店が撤退後、自販機コーナーになるとのこと。
- ・ 10 月 24 日 倉本委員長と共に中部空港視察、税関長表敬。
国公連合の人事院中部事務局長交渉に出席。
- ・ 10 月 27 日 要望書（中高年層）提出
- ・ 12 月 14 日 税関長交渉
- ・ 復便の状況は以下のとおり。今のところ人事異動の予定はないが、入国旅客が増えれば併任を解除して戻すということになっている。貨物便の SP 貨物は、羽田や関空に持っていかれているので減少しているよう。
 - 中部空港：10 月 30 日から LCC 用の T2 ターミナルで出国のみを行う。出国のみの理由は、検疫で人が出せず対応できないため。
 - 静岡空港：2 月にチャーター便が入るかもしれない。

オ 大阪

- ・ 10 月 14 日 定期大会
- ・ 12 月中旬 税関長交渉予定
- ・ 復便の状況は以下のとおり。
 - 関西空港：入国制限撤廃後、少しずつ旅客が増えており、職員を徐々に戻していくと思われる。7 月 1 日付の併任辞令の際に、職員によって旅客が週平均

1万人を超えたら併任解除、1万5千人を超えたら併任解除と言われている。併任は100名程度。併任先の職場は、併任職員がいることが普通になっているので、戻されて忙しくなったという声が出てくると思われるので注意しながら見ていく。撤廃前が週平均3,000人程度の入国であったが、撤廃後、4,000-5,000人となり、今は週6,000人程度となっている。便は1日30便程度。

富山空港：復便は4月以降。

小松空港：復便は4月以降。

フェリー：門司と同様に旅客の再開を考えているよう。11月からトライアルでフェリー会社の職員を旅客として入国させたいとの話がある。

カ 神戸

- ・10月1日 定期大会、青年総会
- ・12月7日 税関長交渉予定
- ・神戸管内には、広島空港、岡山空港、高松空港があり、うち、動きがあるのが広島空港と高松空港。復便の状況は以下のとおり。人事異動が12月1日付に行われる予定。ただ、便が100%戻っていないので、空港に戻る人員も6-7割程度の予定と当局から聞いている。きめ細が10月20-21日に行われており、組合員の事情を勘案して異動するように予備交渉から当局には訴えていく。今後、神戸管内ではサミットがあり、広島の方に人を増やしていくことが予想される。当局には、人をかき集めるのはいいが、他の職場とのバランスを見極めて人事異動するように伝えていく。

広島空港：チャイナエアラインが1月4日から週4便

高松空港：エアソウルが11月23日から週3便

チャイナエアラインが1月4日から週4便

香港エクスプレスが1月22日から週3便

岡山空港：今現在、動きなし。今後動きがあればヒアリングを行っていく。

キ 門司

- ・10月1日 定期大会
- ・12月中旬 税関長交渉
- ・博多や下関に韓国からのフェリーが来ているが、大量の小口貨物を持ってくるとの話が出ている。博多は、保税蔵置場の新規許可の話が来ている。想定されている貨物は、韓国からの衣類や化粧品などの小さなもの。1回で何百個何千個の申告が増え、検査等をどうするのかという話が出ている。下関も似たような話がありそう。
- ・復便の状況は以下のとおり。

福岡空港：今現在、1日に15-20便程度（貨物便も含む）。入国制限の撤廃以降は、1日1,500-2,000人の入国があり、入国は増えてきている。コロナ前は、外郵に併任をかけていたが、今年の7月から戻している。明日からウインタースケジュールが始まり、航空会社は便を増やしたいが検疫の人員

が追いつかないとのこと。福岡空港は、22 時まで飛行機は入港できるが、あまり遅くなると検疫が対応できないということで、今は 17 時か 18 時くらいが最終便となっている。

地方空港：早く戻したいらしいが同様に検疫の問題でいつになるかわからない。併任解除について当局に確認したが、具体的な復便の話が出ないと動けないとのこと。

フェリー：博多と下関にある。お客を乗せて運行したいという動きはあるが、具体的にいつからというのは決まっていない。ただ、それに向けて動いているようで、早ければ年内かもしれないという状況。

クルーズ：博多は、コロナ前は年間 300 から 400 を超える入港があった。港湾局もクルーズを入れたらしいがまだ決まっていはいない。船の中でコロナが出たときの対応を考えると中々進まないとの話もあった。そうすると、博多港は同じ市内に福岡空港があるので、そういった時の搬送ルートはある程度構築されているので早い可能性もある。

ク 長崎

- ・税関長交渉 12 月 13 日
- ・加入懲憑はまだできていないが、監視に若手が配属されており、そこに青年部長がいる。佐世保配属先にも前青年部長がいる。そこを中心に加入懲憑をする予定。
- ・復便の状況について、長崎管内には、長崎空港、佐賀空港、熊本空港、鹿児島空港があるが、動きはなく定期便なし。夏季スケジュールが入る 3 月からではないかと聞いている。税関は併任を解除すればよいが、検疫に人が足りないため、復便が遅れている。徐々に復便してくれば、まずは応援体制や併任解除しても引越しを伴わない職員を解除して対応していくのでは。

ケ 沖縄

- ・税関長交渉は、12 月中旬に例年行っており、現在、そのためのオルグを行っている。
- ・令和 4 年度新職の加入懲憑状況は以下のとおり。
大卒 9 名中 7 名 高卒 2 名中 2 名 加入
- ・復便の状況は以下のとおり。

那覇空港：10 月から午前中に 1-2 便程度で再開。コロナ前は、1 班 8 名の 4 班で当直をしていたが、コロナで便がなくなったので他の部署に併任をして、現在は 1 班 4 名の 4 班の日勤勤務体制になっている。復便後も併任を戻さず、監視部から応援をもらっている。11 月からは、日によって午後便が入ってくる。12 月からは、一気に 1 日 13-14 便になる予定で、朝早い便が 8 時くらいに入ってきて、夜も 20 時くらいということで、12 月入ったら当直体制に戻さないといけないのではという話が組合員から出ている。オルグをしながら当局側にその旨を伝えていく予定。1 月には 20 便以上という予定となっている。

(2) 検討事項「草の根活動状況について」

各地区本部からの「草の根活動状況」は別紙のとおり。他の地区本部の活動を参考とし、各地区本部の実態に応じて実施できる内容があれば実施していき、会議等を通じて情報交換等をしていく。その他、別紙「草の根活動状況」以外の発言は以下のとおり。

ア 函館

- ・執行委員会は毎週火曜日に開催している。主な内容は活動内容の共有と役割分担。各分会から要求が上がってくればその都度検討している。

イ 東京

- ・その他の「お菓子配付レク」とは、組合事務室に来てもらった人に配布している。
- ・インフルエンザ補助については、負担増額分 2,000 円の補助を考えている。本関勤務者には、事務室に来てもらい補助と併せてお菓子も渡すというのも考えている。
- ・執行委員会という形を厳密にとって開催しているのは少ない。本関勤務者が昼休みに集まって情報交換をしている。また、必要に応じ WEB や LINE で情報交換をしている。
- ・成田と羽田については、副委員長を置いている。役員がいるところは役員が動き、いないところは分会が動いている。

[上記報告を受けて中執での質問]

- ・配転希望調査をしているとのことだが、対象者を線引きしているのか？
→集計の段階で事情ごとに優劣をつけて当局に伝えている。直近の 3 回は 80% くらい叶っている感触がある。

ウ 横浜

- ・執行委員会と整理されたもので行ってはいない。四役で集まって随時相談している。青年も必要に応じて集まっている。
- ・人間ドックの補助を 3,000 円、インフルエンザ補助を 1,000 円している。

エ 名古屋

- ・別紙以外のレクとして、動物カフェを貸し切りして組合員を集めてするのもいいかなと検討している。
- ・執行委員会は、不定期だが年 10 回程度やっている。内容は、交渉や大会の準備をしている。中央情勢の報告や専門委員会参加者からの報告を共有している。
- ・分会代表者会議をコロナ前はやっており、この時に職場諸要求の話をして分会交渉もお願いしている。前期は集まれなかったので職場諸要求を依頼するときに分会交渉も投げて中部空港の分会だけ交渉を中部空港の総務課長と実施している。

オ 大阪

- ・執行委員会は、不定期で開催している。内容は、アンケート、税関長交渉の議題、職場での問題等について。

カ 神戸

- ・オルグは、コロナ感染者が増えており、当局や組合員も敏感になっているため行えていない。タイミングをみて行う予定。
- ・青年レクで USJ レクを実施したが、同日にプライベートで来ていた新職がコロナに感染していた。レク参加者での感染はなかった。
- ・旗開きは、前期も実施している。組合員から心配する声もあったが、感染対策を徹底して行ったところ、好評であった。
- ・コロナを理由に活動しないと辞める理由を作ってしまうので活動を見せていくことが大切。
- ・執行委員会は、月 2～3 回、集まれる人が集まって行っている。内容は、活動をする際の準備、総括、オルグの担当決めなど。
- ・分会で個別の交渉等はしていない。

[上記報告を受けて中執での質問]

- ・USJ レクはどのような事をしているのか？

→基本的には同一で行動してもらい、その後、有志でご飯をした。青年同士のつながりを持ってほしくて開催した。

- ・Wi-Fi レンタルは無料で貸し出しているのか？

→Wi-Fi は無料で貸し出ししている。研修で WEB 研修となった

キ 門司

- ・青年総会後に出席者に勧誘方法等についてヒアリングを行った。
- ・執行委員会は、月 1 回程度開催。内容は、税関長交渉、新聞発行など。新しく執行役員になってくれた若手の為にも活動している事を示すために集まってしている。

[上記報告後、他地区本部に質問]

- ・分会に役員を置いているのか？

大 阪：執行委員会を置いている。理由は、各支署出張所に執行委員を置いた方が意見を吸い上げやすいため。顔なじみの後輩等に依頼している。

名古屋：分会規則で役員を置いている。基本的には分会役員に後任を見つけてもらうが、見つからなければ執行部で探している。

ク 長崎

- ・青年レクやオルグは、各支署等から要請があればコロナ対策をしたうえで補助や実施を検討している。
- ・例年 12 月に組合員の子供を対象に青年でクリスマスサンタを行っている。要望があった家庭に訪問してお菓子を配るなどをしている。
- ・執行委員会は、不定期で開催している。コロナ禍はメールで開催もしている。執行役員でグループラインを作っているがなるべく集合でやっている。書記長に負担が偏らないように分担している。

ケ 沖縄

- ・バーベキューレクは実施済みで 10 名程度が集まった。
- ・沖縄は一時期人口当たりのコロナ感染者がワーストになっていたが、現在は全国最小となっている。今のタイミングでレク等が色々できればと考えている。
- ・執行委員会は、不定期で開催している。ただ、コロナ禍は集合を控えて LAN メールで行っている。内容はオルグの調整や税関長交渉など。

(3) 検討事項「組織拡大に向けた具体的取り組み事項について」

(新職及び本省他機関帰関者加入状況等含む)

各地区本部からの「組織拡大に向けた具体的取り組み」は別紙のとおり。その他、別紙「組織拡大に向けた具体的取り組み」以外の発言は以下のとおり。

ア 函館

- ・新職の加入懇話については、新職が飽きないように 45 分 1 本勝負で説明を行っている。加入届についても納得してもらったら、その場で加入届を書いてもらう。後に延ばすと加入しないことが多いため。直属の上司からも懇話してもらったこともあるが、裏目に出た場合もあり、ケースバイケースで行っている。
- ・青年オルグを兼ねて加入懇話をしている。会議室だと拘束されている感じがあるので、居酒屋で行ったこともある。
- ・労金の自動車ローンが安いので入りたいとの組合員もいた。
- ・レク基本的に組合員対象だが、採用から 2 年以内の人は非組合員でも半額補助するなどしている。

イ 東京

- ・新職の加入懇話については、研修支所での研修のお昼に説明会を実施して加入届を渡しておき、夕方に回収に行く。教育官が組合員だったので教育官に回収の箱を持ってもらった。新職に説明する際に年配が話しても響かないので、上の役員が概要のみを話して、あとは青年部長に話をしてもらっている。
- ・他省庁等から戻ってきた人に対しては、委員長名でお手紙を出して加入してもらっている。結果、加入したのは 3 人であった。

ウ 横浜

- ・別紙「組織拡大に向けた具体的取り組み」の記載のとおり。

エ 名古屋

- ・未加入者について書記長が加入懇話して産休明けの 1 名加入、青年部長が加入懇話して令和 2 年大卒が 1 名加入。ただ、2 名脱退したので±0。

オ 大阪

- ・他省庁から来ている人については、委員長からメールをして 2 名加入した。

カ 神戸

- ・前期の新規採用に対する加入懇懇において、未加入者にもオルグに参加してもらって組合に理解をしてもらった。前期はそれで1名加入した。

キ 門司

- ・最近の傾向として、新職はすぐに加入しないため、職場に戻った後に分会の上司から加入懇懇をしてもらったり、語学研修の時に組合でお弁当を用意して加入懇懇をしたりしている。その後、加入懇懇のメールも送っている。

ク 長崎

- ・今年の高卒の加入懇懇は担当者不在や青年部長交代もありまだ実施していない。各分会の青年層組合員と連携しながらレクの開催と併せて行う予定。
- ・組合員資格復活者へは、異動時期に合わせて委員長がメールで再加入の依頼をしている。
- ・未加入者で異動期などに相談があった場合は、そのときに加入を勧めている。今年度1名実績がある。引き続き相談があれば乗りつつ、加入懇懇をしていく。

ケ 沖縄

- ・別紙「組織拡大に向けた具体的取り組み」の記載のとおり。

[全地本報告後、中執での質問]

- ・支所の昼休みに昼食をとって説明をしている地本は当局の反応（スムーズに了解が取れているか）と組合員の反応（参加した人、しなかった人など）を教えて欲しい。

函 館：新職については、研修から難色を示されたことから行っていない。

名古屋：令和2年に実施。当局は協力的で前日にアナウンスもさせてくれた。研修からのアナウンスもある為か新職も弁当は快く食べていた。

神 戸：まず、研修所に行く前に夕方の時間外に組合についての説明を15分ほどさせてもらっている。当局にも了解を得ていて、アナウンスをしてくれるなど協力的である。その後、戻ってきて支所の研修の時に時間外にご飯に連れて行っている。連れていくときは、職場の先輩を必ず同行させるようにしている。食事に手を付けないことはない。ドタキャンはされたことがある。

門 司：当局は協力的。研修前に研修課長に了解を得ている。研修生がこちらの弁当を食べない等の話は聞いていない。コロナの時は食事はやめてくれとの話があり、お菓子と飲み物を渡して15分説明をしたということもあった。

長 崎：当局と研修課長に事前に了解を得ている。難色を示したことはない。研修生が拒否した事例はない。

沖 縄：当局は協力的。前の委員長の時にたばこで抜け出して帰ってこなかった研修生もいる。

(4) その他

ア 人事院交渉について

- ・10月12日(水)に実施。級別定数を中心に交渉を行った。今回の交渉相手は、給与関係ということで、給与第二課制度班の専門官であった。回答については、例年と変わっていない(現在議事録作成中のため、作成後各地区本部に共有予定)。
- ・今回の交渉とは別だが、関連して11月10日(木)午後に国公連合として夏季休暇の取得期間の改善要求を人事院総裁あてに提出するように調整しているとの話が中央よりあった。交渉時に現場の声を届けるため、空と海で1名ずつ動員要請があった。空は東京地区本部で調整中。海はクルーズ船が多い門司地区本部か長崎地区本部で調整することとした。夏季休暇については、秋民調で季節的な休暇制度の調査が行われているとの共有があった。

イ 内閣人事局交渉について

- ・10月12日(水)に実施。回答の中で、「今年度で言う内閣の重要な組織として、こども家庭庁、感染症対策の統括庁が新たにできるので、今までのように増員というのは難しい状況です」「10月5日に東京税関を視察し、税関業務の重要性、困難性を肌で見させていただいた」などの発言があった(現在議事録作成中のため、作成後各地区本部に共有予定)。

ウ 各種要請書提出について(統一行動)

- ・10月25日に「中高年層組合員の処遇改善に関する要求書」を関税局へ提出済み。各地区本部にあっては、統一行動をお願いします。
- ・「定年退職者の後補充等に関する要求書」については、11月に総決起集会の集会宣言と併せて提出予定。

エ 関税局長交渉について

- ・11月15日10時からの予定。来週月曜日までに出席可能者の回報依頼をしているため、その後事務連絡を発出する予定。
 - ・変更箇所について、書記長から説明があり、最終的な内容の確認を行った。
- [上記報告を受けて中執での質問]
- ・経済安保については最近動き出したところであり、これからどう動いていくか分からないと思うが今回の局長交渉に入れた理由はあるのか？
- どう動いていくか分からないのに開始しているというところが問題と認識しているため、過度な負担とならないように要求しつつ、前広な情報提供を求めている。
- ・当局から労組から何を望んでいるのかと聞かれたときに回答できるようにしておいては？一つは研修をすること(法令、事例、国際情勢)、先端技術を扱っている工場見学をして商品学を学ぶなど。
- 研修をしたからといって全てが的を射ているとは限らず、どこまでの研修やればいいのか限りないところがあり取捨選択が難しい。ただ、幅広い知識が必要というのはそ

のとおりなので予備交渉で聞かれた場合はそのように伝えていく。

オ こくみん共済のマイカー共済について

- ・村岡書記次長より、こくみん共済のマイカー共済について紹介があった。国公連合として割引が適用されるため、割引率が高いとのこと。
- ・申込みにあたっては、各地区本部が所管のこくみん共済本部へ登録をしておく必要がある。現在、団体登録がない門司、長崎、沖縄地区本部に意向を確認したところ、登録意向があったため、先ずは登録を進めていくこととした。
- ・登録が完了後、チラシを完成させ、各地区本部に共有することとした。

カ 各地区本部による加入懇懇プレゼン

- ・実際に各地区本部がどのような説明をしているのか、実演してもらうことにより共有を図った。
- ・最後に倉本委員長より、「コロナ禍で活動ができていないという発言があったが、集会等規模を縮小しているだけで活動はしているので組合員に誤解のない説明をお願いします。今期はコロナを理由にせず平常時に戻してやっていくのでよろしくお願いします。」との発言があった。

[プレゼン後の質問]

①横浜地区本部の説明で組合と言わず職員団体と言っていたのは意図的か？

横 浜：意図的である。

②加入届を当日に書いてもらっているところで、1人書き始めれば他の人も書き始める傾向にあるが、シーンとすると誰も書かない雰囲気となって両極端のリスクがある。当日書かせているところはどのようにしているか？打開策があれば聞きたい。

函 館：一切書いてくれなかったことはなかった。仮にあれば、回収は後でとりあえず書いてくださいというのは一つの手。今年は講義形式の配置で説明をしたが、前の席に座った人は書いてくれたが、後ろの席の人は書いてくれない傾向にあった。入っていない人にも青年レクで半額補助するなりして参加してもらって加入懇懇するなど考えられる。

東 京：教育官が組合員で協力的なところもあり、研修室の後ろに教育官が箱を持って待機している。その前を通らないと帰られないので大体出してくれる。

名古屋：ここ数年はその場で書いてくれない。事前に研修所にどんな子かを確認してリーダー的な人にまずは書いてもらうように頼んでいる。それでも書いてくれないので、親御さんとかに相談してもいいと言ったり、明日も顔出しますと言ったりしている。最初の加入懇懇は3日ある研修の2日目に行っている。研修が終わった後は個別にしている。ずるずる伸びると加入してくれないので、当日回収が望ましい。

神 戸：その場で書いてくれないことが多い。沈黙になると絶対書いてくれないので、書き方分からないことあった？等で話を繋いでいる。時間の関係でとりあえ

ず持ち帰って考えてもらったが、翌日に提出を依頼したら2名提出があった。コロナかで個別で対応（対面）が多かった。反応が意外に良かった。集まってしまうと集団心理が発生してしまう。函館のセディナの話はよいと思ったので参考にしたい。

沖 縄：結構すぐ書いてくれる。誰も手を付けないということはなかった。仮にあれば、分からないところあった？と催促をする。

③説明後に質問が来ることはあるか？

函 館：質問は細々ある。例としては、加入したら辞めることはできるのか？選挙の手伝いをしないといけないのか？組合に入るメリットはなにか？

東 京：質問があるとは思いますが、手を挙げてくれる人はいない。質問があれば皆さんの職場に青年部の組合員がいるので聞いてくださいと言っている。どんなことを聞かれているかは集計していない。

横 浜：組合費がいくらか？

名古屋：前年の先輩は入っているか？加入することによって役を振られるか？組合費はいくらか？加入していない人はなぜ加入していないのか？こくみん共済はノルマがありますか？（農水からの人）

大 阪：集合の説明会では質問が出たことはない。個別ではたまにある。組織率、組合費、役割があるのか等。

神 戸：役をなにかしないといけないのか？

門 司：基本的に質問は出ない。あるとしたら組合費がいくらか？入ったら役があるのか？

長 崎：基本的に質問はない。数年前にざっくりと想定問答集を作った。参考に後日メールで共有する。

沖 縄：質問が出たことはない。

④横浜地区本部の実演の中で税関長とお話をすると言っていたが、なにか意図して言っているのか？組合費の説明はしているのか？

横 浜：特に意図はない。している。時間の都合上していない時は質問があるので説明している。

⑤東京は教育官に入ってきてもらっていると思うが、年休を取ってきているのか？

東 京：近年は支所で研修を受けているので、教育官も支所にいるので同席できる。数年前に主任教育官をしていた人が執行部にいたので色々サポートしてもらっている。

以上